

## 宮澤弘幸さん七十五回忌、追悼・顕彰を 秋間美江子さんの遺志も継いで

今日、2021年2月22日は、宮澤弘幸さんの七十五回忌です。昨年10月25日には、妹・秋間美江子さんが住んでいたアメリカ・コロラド州ボルダーで亡くなりました。93歳でした。宮澤弘幸さんは法律の下での「スパイ」冤罪を晴らされることなく、秋間美江子さんは「スパイの家族」の汚名のままこの世を去りました。74年前に無念を胸に事実上獄死した宮澤弘幸さんと、その無念を引き継ぎ、「冤罪」を告発し続けて家族のもとへ旅立った秋間美江子さんの半生を追悼・顕彰する思いを込めての墓参にしたいと思います。

### 秋間美江子さんを励ました夫・浩さん

昨年は、ポーリン・レーンの手記が発見されるなど新たな史料や既存資料の重要な見直しが相次ぎ、冤罪の真相を究める上で大きな進展がありました。その中でも、秋間夫妻の担った役割の大きさが改めて浮き彫りになっています。

運動化の発端は、宮澤弘幸が兄事したフォスコ・マラーニと秋間夫妻の運命的な再会でした。1986年秋、マラーニの国際交流基金賞受賞を知った夫妻がアメリカから授賞会場の東京へと駆けつけ、待ち受けた朝日新聞記者・藪下彰治朗の取材を受ける中で上田誠吉・弁護士の著作『戦争と国家秘密法』に出会いました。

ここに、キーパーソンが揃ったのです。藪下記者は初めて全国に伝わる冤罪告発の記事を書き、上田著作を熟読した秋間浩は上田弁護士に直接手紙を書き、感銘を受けた御礼を述べると共に、核心に迫る本格的な真相究明を訴えかけました。

同時に、夫妻の間でも事の重要性を話し合い、折からの国家秘密法反対運動に際して、秋間美江子さんは初めて反対集会（1987年3月・東京）の壇上に立ちました。「美江子が口を閉ざしてはまた同じ悲劇が繰り返される」と、夫・浩の強い励ましと支援を受けての決断です。この励ましは浩が先立つまで終生重ねられ、以来、アメリカと日本を何度も往復してスパイ冤罪被害の語り

部となった美江子さんの一番の支えとなりました。2013年の「真相を広める会」発足後は、安倍政権が画策した「秘密保全法」阻止のために一体となって活動されたこと、多くのみなさんの知るところです。（その半生と活動の軌跡は、冊子「追悼 秋間美江子さん」をご覧ください＝本会ホームページに全文掲載）。

### 北海道大学の責任は重大である

北海道帝国大学は、自学の学生が「スパイ」の濡れ衣を着せられたにも関わらず、事実上見殺しにしました。戦後もこの恥ずべき姿勢を変えることなく、事実を発掘して総括することも怠ってきました。しかしながら本会が行った宮澤弘幸の名誉回復申入れと、秘密保護法反対運動が高まる中で、ようやく事実関係の調査を行いました。2014年5月7日の秋間美江子さん同席の北海道大学との交渉で、三上隆・副学長は「宮澤事件は冤罪であった」と明言し、風化させないために、『宮澤賞』創設、関連資料の整理・公開、150年記念誌では正史に位置づける等を約束しました。

しかしながら最近の北大はこの表明を誠実に実行する姿勢にないと伝わってきています。「真理に倚ってたつ自主独立の自修心」の教育理念に悖る姿勢でよいのか問われています。

（2面へ）



<苦闘した宮澤家の人々>

**宮澤雄也さん** 1890(明治23). 1. 25～1956. 4. 14

宮城県出身、旧伊達藩士の血筋を引く。工学院から早稲田大学を出て横浜電線、ほどなく藤倉電線(1885年創業の大手)へ。社長に見込まれてドイツへ留学。技術畑で実績を上げ、敗戦前後には藤倉電線富士工場の工場長でした。戦後定年退職。子会社・弘電社社長を務めました。享年65。

**とくさん** 1895(明治28)7. 21～1982.

父親は近江商人の血を受け継いで、横浜で生糸を扱って成功した松浦吉松さん。戦後のとくさんは、貸本屋をはじめ現金収入の得られるものなら何でも取り組む才気煥発でした。老後、浩・美江子さんが住むボルダーに近いコロラド州デンバーに移住し死去。享年86。

**弘幸さん** 1919(大正8). 8. 8～1947. 2. 22

雄也、とくさんの次男(長男は0歳で夭逝)。豊多摩郡代々幡175(現在の代々木あたり)生。1932

年山谷小学校(小田急線・参宮橋そば)、東京府立第六中学校(現・新宿高校)入学。2年～5年級長、5年間皆勤。器械体操、水泳、柔道初段。英・国・数の成績良く5年間通し250人中5～18番。学籍簿に「志操堅固」。また幼少から弟妹一緒に英語の個人教育を受け、読書好きで快活でした。1937年府立六中卒。第一高等学校理科甲類受験失敗。北大予科甲類合格。全学的学友会「文武会」理事。1938年フォスコ・マラーニと出会う。1939「ソシエテ・デュ・クール」参加。1940北大工学部電気工学科へ進学。1941.5満鉄月刊誌「満鉄グラフ」に「大陸一貫鉄道論」載る。同月、千葉県習志野の陸軍戦車学校の機械化訓練講習会に参加。6月海軍依託学生試験合格、月45円の手当受給。そして12月8日……。敗戦後釈放されたが、獄中で衰弱。享年27。

**晃さん** 1924(大正13). 3. 31～1964.

慶応義塾大学から学徒動員で海軍航空隊パイロット。前年1943.10.21、明治神宮外苑競技場での出陣学徒壮行大会で在校学徒代表として「壮行の辞」を述べる予定がスパイ嫌疑をかけられた弘幸の弟と知られ外される。戦後復学して藤倉電線から三井物産へ。長崎原爆直後、被災調査の上空飛行で被爆し白血病に。1964死去。享年40。

**美江子さん** 1927(昭和2). 1. 27～2020. 10. 25

大妻女子専門学校から津田塾で学ぶ。戦後、兄弘幸を慰労する旅の途中、阿寒湖で秋間浩さんと出会い、のち結婚。浩さんの転職でアメリカ中西部コロラド州ボルダーへ移住しました。享年93。

## スパイ冤罪事件を風化させてはならない

宮澤弘幸とレーン夫妻らが検挙された1941年から今年は80年、宮澤弘幸が事実上獄死してから75年となります。唯一の遺族だった秋間美江子さんが逝ったことは、事件の直接の当事者がいなくなったということでもあります。

しかしながら弾圧事件の残酷と、それをテコにした戦争への道を阻止出来なかったという歴史を反省する立場に立つならば、宮澤・レーン・スパイ冤罪事件を今後に伝える努力をしっかりと継がねばなりません。

その立場から本会は、確認し得た事実を記録として残す努力を重ねてきました。『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』(2014年)をはじめ、『総資料総目録』(2018年)、『同・補遺』(2020年)『国家権力犯罪に時効はない』(2019年)等を刊行し、

「事務局たより」発行を月刊ペースで継続し、ホームページでそれら全てを公開しています。同時に、秘密法反対全国ネットワークに参加し、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟、レッド・パージ反対全国連絡センターとの連携に努め、2020年12月には『検証 良心の自由 レッド・パージ70年 新聞の罪と居直り—毎日新聞を手始めに』を刊行しました。

国家権力は弾圧の歴史・証拠を一切隠滅します。その現実を嫌と言うほど知らされた我々は、知り得た事実と運動の軌跡を全て遺すべきだと判断しました。80歳前後となった3人の常任・事務局員もいずれ宮澤さん一家と同様に世を去ります。しかし遺した資料が、国家権力犯罪を告発し、立ち向かう武器となって欲しいと願うからです。

事務局＝福島清、根岸正和、水久保文明